

わたしたちは、豊かな緑と水を守り、潤いのある住みよい柏をつくるために、この憲章を定めます。

1. たがいに話し合って、心のかような明るい柏をつくりましょう。
1. 老人を敬い子どもを愛する、あたたかい柏をつくりましょう。
1. 環境をととのえ、安全できれいなまち・柏をつくりましょう。
1. 教育を重んじ、健康で、文化の薫り高い柏をつくりましょう。
1. 国際理解を深め、平和な柏をつくりましょう。

発行/ 柏市役所(〒277 千葉県柏市柏5-10-1 ☎0471-67-1111) 編集/ 企画調整部広報課



団地の夏まつりに繰り出した子供みこし = 豊四季台団地にて

ふるさとを誇りあるものに

市民と市で「ふるさと運動」を

ふるさと。この言葉からはだれもが、生まれ育ち、かつて住んだ土地やそこの文化、人々を思い浮かべるのでは…。二十五年前およそ四万の人口で市となった柏は、現在二十万人を超える都市に成長。それだけにさまざまなふるさと感を持つ市民で構成されるまちになりました。「郷愁」のふるさととは別々ですが、生活の場「柏」をより住みよいまちに、とだれもが願うのは事実です。住んでよかった、しかも、誇りあるふるさと柏といわれるまちへ。市では、こうしたまちづくりを市民参加で積極的に進める「柱」として「ふるさと運動」を市民とともに広く、末永く展開しようとしています。自分のまちを見直すことを始めに、そこから生まれるふるさと「柏」への愛着心「これがこの運動の趣旨。この秋には、市民主体のふるさと運動推進協議会も発足する予定です。ふるさと柏に住み、誇りを持てるまちとはあなたも考えてみて下さい。

人間でいえば、今年二十五歳の柏市は、まさに青春のまっただ中にあるといえます。それを構成する市民の平均年齢も二八・二歳(昭和五十年国勢調査)。柏市は青年が持つ明日の可能性と力を秘めたまちといっても過言ではありません。

四十年代後半からの急速な経済発展のなかで、確かに私たちの生活は物質的に豊かになりました。そして金や物による価値感が支配した結果、人間性の尊重という社会生活において最も大切なものが軽視されるようになってしまったのです。その現れとして、住民同士の間合い、連帯意識を失わしめることになりました。

安定成長に移った今、見せかけの豊かさでなく、心の通う市政運営が求められ、住民、行政ともこれまでの反省のうえに立った新しい意識の必要性が叫ばれています。

約七割が社会的要因で柏に住むことになったというものの、住み慣れてみると柏をふるさとと感じる人々は少なくありません。過去に行われた市民意識調査では、「柏にふるさとを」と思う市民は五一・一%。また、昨年、市内小・中・高校の子供たちに「柏の悪口をいわれたら」の質問をしたところ、八五%が「いやだ」と

答えています。柏に住み、育つ子供たちの郷土愛に対するをほくなく気持ち表わされています。

市では、市民が持つ、こうした郷土愛を大切に、新しい、誇りあるふるさとをつくるため、市民と一体となって「ふるさと運動」を進めようとしています。住んでいる地域を見つめ直し、そこから新しいふるさと柏のまちづくりを盛り上げるために…。

今年の秋には、市民が主体となって、浸透を図る母体、推進協議会が発足する計画です。

柏の悪口をいわれた「いやだ」と感じる柏の子供たちの期待を裏切らないよう、誇りと自慢できるふるさとを、今、市民みんなで考えてみる必要があるのではないのでしょうか。それが、青年都市柏が、明日に向かって自立できる真の「大人の都市」へ成長させる原動力になると…。

ふるさと柏のうた

市民から歌詞を募ります

市では、ふるさと運動を展開するにあたって、広く市民から「ふるさと柏」をたたえる「ふるさと柏のうた」の歌詞を募集します。

郷土、柏に住む喜びと市民相互のふれ合いの輪を広げ、ふるさと柏づくりを目指す心を盛り込んだ詩で、子供からお年寄りまでがどなたでも口ずさめるもの。

応募の資格は、市内にお住まいかお勤めの方ならどなたでも応募できます。

○歌詞の形式 自由。どんなメロデーにも使え、しかも明るく簡明な詩。○応募の方法 用紙は自由。詩の前に住所、氏名、年齢、職業(学生の場合は学校名と学年)を明記。郵送の場合は封書で〒277 柏市柏五-10-1 柏市役所企画調整部へ。直接同課まで持参可能。○締め切り 九月二十日(郵送は当日消印有効)まで。○選定と発表 選定委員会などには十月十一日号広報紙上で発表。○その他 △入選者には記念品を贈呈します。▽著作権は市に帰属し、作品の返却はありません。▽作品の取り扱いには選考委員会に一任されます。

作曲は三橋美智也氏に
作曲は、ふるさと歌手として有名な三橋美智也氏が手がけます。六月、市民文化会館の自主事業「三橋美智也ショー」に出演した台間、同氏は市長と歓談、その席で市が進めるふるさと運動に共感し積極的な協力を申し出されたいきさつもあって今回の依頼になりました。

○問い合わせ 市役所企画調整課(内線二七七)へ。



六百人のかつぎ手で練り出した大人みこし二基。柏まつりを最高潮に盛り上げ、見る人を興奮のるつぽへ



約2キロの市街地を練り歩く大パレード。今回は音楽が主でパレード参加者は1,000人にのぼったとか(田中中のブラスバンド)



今年のまつりは、市制25周年に国際児童年の記念も。日ごろの訓練の成果をひろうする子供に沿道から拍手が沸いた(中原小の鼓笛隊)

市民の熱気柏の夏を包む

柏まつりをカメラスケッチ

「ふるさと」と「まつり」。この二つは、切っても切り離せないものがあります。ふるさとに住む人たちがみんなの力と知恵がまつりの中に如実に表現されるようです。

七月二十一日、二十二日に行われた「柏まつり」は、まさに青年都市・柏にふさわしく躍動感あふれる熱気に包まれました。柏まつり実行委員会(関浦信一会長)が主催するこのまつりは、従来催されてきた「商業まつり」を昨年より「市民みんなが集い、ふれ合える柏市民共通のまつりにしよう」と模様替えしたものです。パレードあり、みこしあり、踊りありと催しも

盛りだくさん。参加した人も、見た人もそれぞれ柏のふるさとを満喫した様子。特に今年は、市制二十五周年と国際児童年の記念も加わり華やかさを添えました。我がまち、我がふるさと柏の象徴「柏まつり」をカメラでスケッチしてみました。



「あっ、こんどは一輪車よ!」。ふるさと柏のまつりを見て育つ柏っ子もゆくゆくは参加者に加わる時が……



ふるさと柏に根づいた「柏おどり」。自由参加の輪踊りには浴衣姿の子供たちが輪に加わって見る人の目を楽しませた



毎日暑さが続いておりましたが、市民の皆さんお元気でお過ごしのことと存じます。暑さの中、各地で夏まつりが盛んに行われております。太鼓やおはやし、みこしをかつか声、神社の緑日のにぎわいなどを見るにつけ、聞くにつけ、ふるさとの郷愁を感じておられる方も多いと思います。また、まもなくお盆、夏休みを利用して郷里に帰られる方もいらっしゃるのではないでしょうか。

私も柏の根戸(当時東葛飾郡富



始めて約2時間後の午後9時40分。一段と練習に熱が入るころ。汗びしょりになりながらも夜遅くまでいっしょうけんめい(古谷青年館)

柏をふるさとく明るく 住みよい

市民の知恵を結集して推進

柏市長 鈴木 眞

まれ育った人たちはばかりでなく、遠く離れた地にもふるさとを持つた人もおおいおられるわけですから、

私ばかりでなく、市民としての務めではないでしょうか。二十三年市民の中には、私のように柏で生

が、皆さんの柏市を愛してくださる気持ちに変わりは無いと思えます。ところが、最近のせちがら世相のせいばかりではないでしょうが、人間同士の心の通い合いといえますが、きずなが薄れているような気がしてなりません。

これまで市民の福利増進のため、生活環境などの施設づくりを進めてまいりましたが、そればかりではなく、ほんとうに心の通ったふれ合いが求められております。そうした願いをこめて、今年から「ふるさと運動」を推進することにいたしました。

明るく住みよいふるさと柏をつくること、それは行政の力だけではできないものではありませんが、市民全員が知恵を出し合い、自ら進んで参加することが必要と考えます。どうかこの運動のため、市民ぐるみの参加にご協力をお願いします。

25年ぶりに「八木節」復活

布施の主婦たちがお盆におひろめ



「おばあちゃん、笠はこう回すのかい」「いやこうだな」。74歳の長老も昔を思い出しながらの指導にひと役



たたき手つきもだいぶさまになってきたようす。手に豆をこしらえたり、手首を痛めたりしながらも太鼓に向かって「ドンドンカカカカ……」

布施の古谷地区に大正末から伝わっていたという「八木節」。本場上州の八木節よりも動きが早く、笠を回す動作も機敏さを要求されるとい、盆踊りが最高潮に達した時、必ず踊られた名物踊り。が、二十五年前にぶつりととたえてしまったとか。ところが、郷土かしわに伝わっていたこの踊りを、今年の盆踊りに復活させようとして、この地区の主婦が中心となって練習に励んでいます。知っているのは四十代以上の主婦が四、五人だけ。昔を思い出しながら振り付け、指導する姿に、初めて見る人たちはそれを受け継ぐと懸命。八月十三日の盆踊りを前に、最後の仕上げの真最中。市制二十五周年の柏市に歴史のある踊りが二十五年前に復活するの何かの因縁でしょうか。

夏・柏・郷土芸能

「盆綱」と「三匹獅子」の催し

日本の夏は祭りの季節でもあり、各地から祭りの便りが聞かれます。郷土柏にも、古くから伝わる夏の行事として、大室の「盆綱」、篠籠田の「三匹獅子舞」が、地元の人たちの手で今も行われています。八月のお盆の時期に催される郷土の芸能二題を紹介してみましよう。

15日 盆綱引き 大室

柏駅西口から野田方面行きのバスに乗り「大室」下車、徒歩十分の大室地区では、毎年八月十五日に「盆綱」が行われています。この盆綱は、太くした綱



威勢のよい掛け声とともに行われる大室の盆綱引き

の中央部分に神霊が宿るといわれ、綱引きに勝った方に幸運、豊作があるとされるもので、単なる力比べが、年の豊凶を占うことに転化した年占いの行事です。元禄十二年(一六九九年)に行われたのが最初と伝えられています。

綱づくりは、当日の朝から開始。長さ三十坪の荒縄数本をよ

16日 三匹獅子舞 篠籠田

柏駅西口から西口循環バスに乗り「三軒」下車、徒歩二分の篠籠田の西光院というお寺で、毎年八月十六日に三匹獅子舞が行われています。

言い伝えによると、今から約二百六十年前(元禄時代)徳川五代将軍綱吉公のころから続いているといま



今では近郷からも見物人がくるという篠籠田の三匹獅子舞

す。舞は三層四方に張りめぐらされたしめ縄の中で「女獅子」「中獅子」「大獅子」の三匹の獅子が順次舞っていくもので、大変華やかなもの。そして、最後に「精進返

し」といって三匹そろっての舞が行われると、三匹の獅子はしめ縄の中央に集まり、雨乞いの唱えごとをします。

このように、三匹獅子舞の獅子は竜の頭を形どり、水と縁の深い竜神を祭ったといわれ、その舞は日照り続きで水不足に悩まされた住民たちが、部落こそつて雨乞いの奉納舞として行ったものと伝えられています。

もう十五年前に造られて、ちよつと古い建物だけど、ペランダのてすりや階段の下のポストなど、塗り替えたばかりのペンキがめだつ。その周りには芝生を初めてとして、いちよう、松、たくさんの木々、緑に包まれてい

る。私たちの階段の両わきに咲いているアジサイなどの花は知らず知らずのうちに心を落

ちつかせてくれる。私

はここで生まれ育ち今十四歳。みんなが楽しみにしている行事の一つに夏祭りがある。小学校のころ毎年かついだおみこし。「ワッショイ、ワッショイ」というか

きとめて魚をとったり、近くの天神さまの下でナマズをつかまえたことも……。心に残るふるさとといわれた場合こうした自然とのふれあいが思い出されますね。

ふるさとのよさは、離れてわかれるといえます。でも、明治に生まれ、柏の北はすれ船戸を離れたことのない私にも、ふるさと船戸のよさはわかります。船戸には豊かな自然とそこにははぐくまれた人同士の深いつながりが今でも残っています。

ホレ、この家からも利根川がみえるでしょう。むかしは、春先になると、銚子から東京へ向かう高瀬船がこの川を通るのが家の座敷からみえたんだとね。それに「しま」（利根遊水池）の小さな堀で「くみつけ」といって水をせ

ふるさととは遠くにあてて思うもの。昭和四十六年、柏を離れてみてつくづく柏のよさ、なつかしさを感ずる。我が生涯で一番長くまた意義深く生活したのは柏。

二十一年間を柏で暮らし、その間婦人会、教育委員などの社会活動をさせていたのだから、思い出がたくさんある。

私の感じた柏は、まず人間関係で、長い間にはもちろんいろいろあったが、忘れられないのはありがたかったことのみである。柏に移り住んで早々、とても腕のよい

り、歩き回ったり、飲んだり、食べたり。活気あふれるお祭りにつくづく、「夏を感じて」やっばり夏休みみたいいなあ」と。ところで、よく「団地の子は利己主義だ」なんて耳にする。確か

に利己的な面は多いかもしれないが、そう言われてもしかたがない言動もあると思う。私もそうだ。しかし、それは団地の子供だからだろうか。

短所を指摘してもらえるのはいいと思うが、「団地の子は」と決めつけたいは欲しいし、長所だつてあるのだから短所ばかり強調しないで下さい。

それから、だれだつてきれいな環境の中で暮らしたいと思うでしょう。団地は、ある意味での共同生活をしているのだし、もちろん団地外でも、その辺にコーラの空きかん、たばこの吸いがらを捨てたり、ゴミの日でもないのにゴミ

を出して、野良猫に荒らされたりしないように、みんなが気をつければ、もっともっと住みやすい団地になると思う。

【豊四季台 柏三十二年】

ふるさととは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

八年前の暮、大阪に住んでいたころ、ある人にあなたのふるさとを、ある人にあなたのふるさとを、はたとすねられた時「私のふるさととは、千葉県の柏。特に名所などはないが、とても住みやすい所」と答えた記憶があります。

私は柏生まれで柏育ち。手賀沼で泳いだこと、布原弁天前の田んぼでサリガニを取ったことなど思い出はたくさん。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

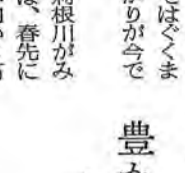
うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい



楽しみな夏の祭り
生まれ育った団地の十四年
大野 晶子



豊かな自然と人情
「船戸」こそわがふるさと
田中 貞雄



排他的でない人々
二十一年住んだ柏を離れて
武者 静子



心に残る私のふるさと
【都内世田谷区 主婦】

心に残る私のふるさと

ふるさととは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

わが故郷「大分」は、歴史とロマンの香りがあふれる街。その昔、キリシタン大名「大友宗麟」は、全国に先駆けて南蛮貿易を勧めたので、海外の文化が潮のように府内（現在の大分市）に流入し、街には教会堂や神学校、洋式の病院が建ち並び、日本で最初の洋楽演奏会も行われたほどだった。

私は、「現代大分」が幾多の芸術家や音楽家（瀧廉太郎、朝倉文夫、福田平八郎、佐藤敬、今も活躍中の高山辰雄、園田高広、中山第一、立川清登……）を輩出したその土壌は、遠くこの時代に培われたのだと思う。

風光明媚、山紫水明の地「大分」。

早いものです。主人の転勤のため、ささやかでも十数回西原に住居を求めてから早くも六年になります。それまでは名古屋でした。「ふるさととは？」と問われれば、遠野物語で有名な岩手の遠野が私のふるさとです。そこで生まれ育ったのですから、この地は第二のふるさとといえるでしょう。

柏に来た当時をふりかえると、周囲には背よりも高いススキなどが茂り、見渡す限り緑が広がっていました。近くに公園、遊び場も

わが故郷「大分」は、歴史とロマンの香りがあふれる街。その昔、キリシタン大名「大友宗麟」は、全国に先駆けて南蛮貿易を勧めたので、海外の文化が潮のように府内（現在の大分市）に流入し、街には教会堂や神学校、洋式の病院が建ち並び、日本で最初の洋楽演奏会も行われたほどだった。

私は、「現代大分」が幾多の芸術家や音楽家（瀧廉太郎、朝倉文夫、福田平八郎、佐藤敬、今も活躍中の高山辰雄、園田高広、中山第一、立川清登……）を輩出したその土壌は、遠くこの時代に培われたのだと思う。

風光明媚、山紫水明の地「大分」。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

ています。

十年前に比べ人口も二倍。駅前には見えません。私は柏の住民がもっと柏に愛着をもち、柏をふるさととして大切に育てていくことが、何か出来ないのか考えました。それは、街に「ふるさとの道」を作るとい

うことは、過ぎた日の思い出なのだろうか。私にとって、ふるさととは柏そのものではない。私の住んでいる柏が、住みやすく、ゆとりある生活の場であり、やすらぎの場であつては、と思っ

わが故郷「大分」は、歴史とロマンの香りがあふれる街。その昔、キリシタン大名「大友宗麟」は、全国に先駆けて南蛮貿易を勧めたので、海外の文化が潮のように府内（現在の大分市）に流入し、街には教会堂や神学校、洋式の病院が建ち並び、日本で最初の洋楽演奏会も行われたほどだった。

私は、「現代大分」が幾多の芸術家や音楽家（瀧廉太郎、朝倉文夫、福田平八郎、佐藤敬、今も活躍中の高山辰雄、園田高広、中山第一、立川清登……）を輩出したその土壌は、遠くこの時代に培われたのだと思う。



わが故郷「大分」は、歴史とロマンの香りがあふれる街。その昔、キリシタン大名「大友宗麟」は、全国に先駆けて南蛮貿易を勧めたので、海外の文化が潮のように府内（現在の大分市）に流入し、街には教会堂や神学校、洋式の病院が建ち並び、日本で最初の洋楽演奏会も行われたほどだった。

私は、「現代大分」が幾多の芸術家や音楽家（瀧廉太郎、朝倉文夫、福田平八郎、佐藤敬、今も活躍中の高山辰雄、園田高広、中山第一、立川清登……）を輩出したその土壌は、遠くこの時代に培われたのだと思う。

風光明媚、山紫水明の地「大分」。

わが故郷「大分」は、歴史とロマンの香りがあふれる街。その昔、キリシタン大名「大友宗麟」は、全国に先駆けて南蛮貿易を勧めたので、海外の文化が潮のように府内（現在の大分市）に流入し、街には教会堂や神学校、洋式の病院が建ち並び、日本で最初の洋楽演奏会も行われたほどだった。

私は、「現代大分」が幾多の芸術家や音楽家（瀧廉太郎、朝倉文夫、福田平八郎、佐藤敬、今も活躍中の高山辰雄、園田高広、中山第一、立川清登……）を輩出したその土壌は、遠くこの時代に培われたのだと思う。